

## A-52 飼料組成の相異が白鼠の蛋白質、および Na, K の代謝に及ぼす影響について

東京文化短大 ○松木 光  
菊野恵一郎  
中里八恵子  
生部 節子

1) カゼイン 0%群, 15%群, 60%群の飼料組成によるラットの成長試験を行ない, 窒素の吸収, 出納ならびに肝臓重量, 窒素量などを観察し, 蛋白摂取の過剰が腎臓機能の障碍から代謝に影響すると思われる Na, K の吸収, 出納などについての実験を試みた。

2) 実験期間は5週間余とし, 体重 75 g 前後の可及的同腹ラット各群 4 匹ずつの雄鼠を用い, 直射日光の射入しない 20~21°C の恒温箱に飼育し, 1週間ごとに体重測定, および尿, 糞を集めて, 蛋白質, Na, K について測定し, 5週間後に肝臓重量, 窒素量などを観察した。

3) 体重においては, 0%群では1週間ごとに 10 g 前後の減少を示し, 5週間後には1匹を残すのみにて他は死亡した。15%群, および60%群では順調な成長を示しているが, 60%群では下痢などのため却って低下を示したものが見られた。

窒素出納は, 0%群以外は何れも ⊕ を示し, 15%群 ⊕ 200 mg 前後, 60%群 ⊕ 800 mg 前後の成績を示した。

Na, K では実験期間が短かかったためか, 有意の差は見られなかった。

肝臓の重量および窒素量については, 体重減少と, 肝臓の縮小とは必ずしも平行せず, 生命維持に必要な肝臓絶対量の最低線とでもいふべき値のあることを認めた。